

子どもから高齢者まで様々な交通参加者に 安全・安心を届ける

2030年ビジョンに掲げた「交通事故ゼロ社会の実現」に向け、
2019年も「人から人への手渡しの安全」と「参加体験型の実践教育」を基本として、
交通社会の変化やニーズに合わせ、活動を展開しました。

ルール・マナーを守ることの 習慣化をめざす

子どもたちは幼児期や小学校入学後の交通安全教室で、交通安全の知識や事故に遭わないための安全行動を学びます。身につけた知識を、それ以降も行動として実践することの大切さに気づいてもらうため、小学校高学年・中学生を対象とした新たなプログラム「将来 社会で活躍する君たちへ」を開発しました。社会生活を豊かに送る上での基本である「ルール・マナーを守り、習慣化させる」ことで、次代を担う子どもたちが交通安全を自分事ととらえ、事故に遭わないようにすることを目的としています。小学校高学年や中学生が歩行中、自転車乗用中に行っている間違いがちなルール・マナー違反の映像を見せた後、指導者が問いかけ、児童・生徒の気づきを促す内容となっています。



小学校高学年・中学生向けプログラム

高齢運転者の方を中心に日頃の意識や 運転行動を振り返っていただく

近年、ブレーキとアクセルのペダル踏み間違いなど「運転操作不適」による交通事故が高齢運転者を中心に目立っています。このような事故を予防することを目的に、四輪販売会社のお客様を対象としたプログラム「みんなで安診(安全運転行動診断)」を開発しました。安全な乗車手順やクルマの死角の確認、じゃんけんによる反応体験などを通じて、自らの日頃の意識や行動を振り返りながら、事故を防ぐために必要な安全行動の重要性をお客様に理解していただける内容になっています。四輪販売会社のスタッフを対象に導入研修を全国10ヵ所で開催。受講したスタッフが、このプログラムを活用してお客様への啓発活動に取り組んでいます。



四輪販売会社での「みんなで安診」

先進の安全運転支援システムの 正しい理解の普及のために

衝突軽減ブレーキや誤発進抑制機能といった安全運転支援システム「Honda SENSING」を普及させるためには、搭載率向上に加え、その効果や限界について正しく理解していただくことが必要です。そのため、「Honda SENSING」の体感試乗会が全国各地の四輪販売会社で実施されています。

そして、さらに多くのお客様に正しい理解の普及を図るため、四輪販売会社の店頭でご覧いただける啓発動画を作成しました。安全運転支援システムのなかでも、誤解や過信につながりやすい衝突軽減ブレーキに焦点を当て、その効果と機能の限界について正しく理解いただくだけでなく、安全運転につながるアドバイスも行っています。



「Honda SENSING」の啓発動画

時代の要請に応える教育機器の開発と 海外活動への積極的な支援

このほか、白バイ隊員をはじめとする二輪車乗務警察官の危険感受性向上の訓練等に活用していただくための教育機器として、Hondaライディングシミュレーターポリスタイプを開発中です。

海外では、各事業所で安全運転普及活動を担うチーフインストラクターを養成するなど、活動に熱心に取り組む事業所が増えるなか、グローバルで情報を共有し、課題を議論する場として、2年ぶりとなる安全運転責任者会議を10月に鈴鹿で開催しました。各国が活動状況を報告し、「研修運営における安全対策」をテーマにワークショップを行うなど活発な議論ができ、2030年ビジョンに向けた安全運転普及活動の方向性などを確認しました。